



62217



913.32
K2



為かまきやうく一考ハこふとれし世のちうさる
 一りり乃名なきにあらぬすもと後代まゝもつて
 下はしとやよき事のかたりえひひかてまゝ入らる
 ぬのこま心人乃ちれらうあも絶えぬ心しそ
 ぬくぬくしれききや玉乃ことくよおひひぬ
 ぬのそつ草紙も又をもかよひせくそ人あつて
 ぬつてちぬいぬしと批つて終も終まる
 ぬふとのお入念心そのす清つひしけらふ
 ぬつハ行玉乃極本乃流れゆけぬむくは江乃水農
 ぬらぬぬしとこおひひちんぬあ、なりきりおぬ
 ぬ、まことぬくと代乃業ハ久まふよ流し、あ
 ぬゆ久ちと男とぬれのおこよ心もろふよ振并代よ
 ぬら乃流いやとぬしと流今よぬぬまゝくぬぬ、大
 本
 一



の花さきのきんせいの世乃人のうきをいづくもあらはまの
 女のいづれもいづれもいづれもいづれも伊勢の国をさかす用いづれも人
 ありとていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 出づる物のまじりに伊勢が昔とて七条后にまはりていづれもいづれもいづれも
 一編いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 条后の傳をいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 けりていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 である昔のいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 ちりていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 ぎもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 まるでいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 たりていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 中りていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

勢にせし物とていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 ちりていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 けんていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 ひもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 物がいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 ねのいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 ちりていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 ちりていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

河世のたづねはき

或はいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 ちりていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 代のいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

在の人の心は...
上は大細下の目ぢれ
あしとんと二つの中
そんちまうとちとん

そハ先大ひひきまて...
さくハた...
あ及て...

ひよりの...

ち年一獨自...
ら...

それを彼...

俗にきく...
く...
て...

日本紀...
集の序...
は...

と軒...

た...
か...

...

け...

録...
...

...

古今事考の巻の終る
まの終の巻をさうく
しり

毛詩二宿寐思服悠哉
悠哉輾轉及側云云
くわんくわん

さうめハ抱きまきくろ
すしかりつらあぢぢり
秋夜抄のトキヲカキ
とむりつら又枕念する
まにちつら枕の抱て

ねよむせむねむきしよるをあつしてまよの抱とてさうめあつらへ
けりて今うまふいやくひのけつしちげりまのひうんくねら
りしてぬらぬれうぬらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
且きそほきつらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
ともむらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
まのころいささうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
まのころいささうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのころいささうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
又まのころいささうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
ハかの朝一りまのころいささうらうらうらうらうらうらうら
時珍哉とて抱をくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
本問とみ

考別ありけりけりつじらる女の許しひきき藤とらふもの
をやうて

ある後ハ抱きまきくろ
すしかりつらあぢぢり
秋夜抄のトキヲカキ
とむりつら又枕念する
まにちつら枕の抱て

けさうハ繫念繫心繫相なるといふ語仏家の書うんじり万葉
係念とま字もあれハ繫想の字まうてはハ別の心を繫うて
まのひきき藤ハ和名抄ハ鹿尾菜を比須木毛とまうらうら
りうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
万葉うら安王の畢表射を娘子うらうら又芳を人よかくは
ちどの朝し又ち本よそげ菊裳とあり一本う袖とまもせ
と裾りよて鎖の字まうて和名抄の聖卧の部ハ鎖ハ毛席以五
色糸為之と見え賦役令とも毛して織る物を貢する
あれハ皇御國よもいさうら抱を困わり万葉うらま
もあまのころいささうらうらうらうらうらうらうらうらうら
て臥具をまうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

Handwritten text in the top left margin of the left page.

Handwritten text in the top right margin of the left page.

Main body of handwritten text on the left page, written in a cursive style.

Handwritten text in the top left margin of the right page.

Handwritten text in the top right margin of the right page.

Main body of handwritten text on the right page, including a section with a vertical line of text.

Handwritten text in the top right corner of the right page, consisting of several lines of cursive script.

Main body of handwritten text on the right page, starting with a large flourish and continuing in cursive script.

Handwritten text on the right page, including a section with a vertical line of text and a section with a large flourish.

Handwritten text in the top left corner of the left page, consisting of several lines of cursive script.

Main body of handwritten text on the left page, starting with a large flourish and continuing in cursive script.

Handwritten text on the left page, including a section with a vertical line of text and a section with a large flourish.

尾張三河の北ハあるの
とありてあるのこゝに
やういふゆゑに
まへにほつても
とありてこゝに
下の世の
一

いづきの事、
万の事、
ては、
ほつて、
に、

あれの、

色の、
さ、
の、

業平

新トの、

ての、
ハ、
度、
に、
一、
を、
ハ、
十九、
対、

三河のふやつとていふはあつりつりぬろをなんやうとていひ
るは水堰せき河乃ろをてなれははしきや洗わしをなうさうりてなん
ハ格とりひたす

せきせやくまひつり
らきまひつり
さきまひつり
てこまひつり
わつりまひつり
まま

ハ格のうり今昔集より三河のふハ格とりつりぬろをなんやうとていひ
ままをていひまはし格乃ハつる格をよくりひきりていひたのこ
はて今いふの古本をよみ水堰河乃格をなれはありま
格乃古本も水きく河とさつらんをほくせくをゆくまや
なれさうんそむく田舎はみをせくハ河のあらうた田
引くハ格のとては格を引くハ河のあらうた田舎はみをせくハ河のあらうた田
けて方へハつりぬろをていひまはし格乃ハつる格をよくりひきりていひたのこ
てちちハつりぬろをていひまはし格乃ハつる格をよくりひきりていひたのこ
は、まがめく流るるまがめく流るるまがめく流るるまがめく流るるまがめく流るる
川のた右の堤の上或はほりりなるとも里人のまがめく流るるまがめく流るる

あつりぬろをなんやうとていひ
るは水堰河乃ろをてなれははし
きや洗わしをなうさうりてなん
ハ格とりひたす

しきまひつり右の格をていひまはし格乃ハつる格をよくりひきりていひたのこ
かまがめく流るるまがめく流るるまがめく流るるまがめく流るるまがめく流るる
溝多一まがめく流るるまがめく流るるまがめく流るるまがめく流るるまがめく流るる
もまがめく流るるまがめく流るるまがめく流るるまがめく流るるまがめく流るる
田舎はみをせくハ河のあらうた田舎はみをせくハ河のあらうた田舎はみをせく
もまがめく流るるまがめく流るるまがめく流るるまがめく流るるまがめく流るる
ハ格とりひたす

さて酔よい大小あり
 大酔おほよの酔よい小酔こよ
 とほとほくわくわいいきき
 少すくくわくわいいきき
 大酔おほよの酔よい小酔こよ
 とほとほくわくわいいきき
 少すくくわくわいいきき
 大酔おほよの酔よい小酔こよ
 とほとほくわくわいいきき
 少すくくわくわいいきき

大酔おほよの酔よい小酔こよ
 とほとほくわくわいいきき
 少すくくわくわいいきき
 大酔おほよの酔よい小酔こよ
 とほとほくわくわいいきき
 少すくくわくわいいきき
 大酔おほよの酔よい小酔こよ
 とほとほくわくわいいきき
 少すくくわくわいいきき
 大酔おほよの酔よい小酔こよ
 とほとほくわくわいいきき
 少すくくわくわいいきき

大酔おほよの酔よい小酔こよ
 とほとほくわくわいいきき
 少すくくわくわいいきき
 大酔おほよの酔よい小酔こよ
 とほとほくわくわいいきき
 少すくくわくわいいきき
 大酔おほよの酔よい小酔こよ
 とほとほくわくわいいきき
 少すくくわくわいいきき

大酔おほよの酔よい小酔こよ
 とほとほくわくわいいきき
 少すくくわくわいいきき
 大酔おほよの酔よい小酔こよ
 とほとほくわくわいいきき
 少すくくわくわいいきき
 大酔おほよの酔よい小酔こよ
 とほとほくわくわいいきき
 少すくくわくわいいきき

或後よきのちを専
とみまらぬことよ
て八木ハ世まのち
をかくものごち
つらつらとま
ハ世まは世の初
つ人のちをちひて
あふせつわねら
まもまはまのち
まつひハ他のち
あつて作らるる
ちのちをちし
ありてねつさね
ありてねつさね

あつて放縦ちなりしなりてはねらるるもなりしなりし
あつてちをちししれどちのちをちせぬまもえし
にまのちをちししれどちのちをちせぬまもえし
ちのちのちをちししれどちのちをちせぬまもえし
あつてちのちをちししれどちのちをちせぬまもえし
あつてちのちをちししれどちのちをちせぬまもえし

こい移遷をある橋のこもが人のちをちせぬまもえし
ゆりちのちをちししれどちのちをちせぬまもえし
りけしちのちをちししれどちのちをちせぬまもえし
これつちのちをちししれどちのちをちせぬまもえし
一つ乃ちし

言乃ちりり人れはれめをぬまみてむましのく井て移ほとま
人なりなれまのこちから先られしけり

次のみちをぬまみてむましのく井て移ほとま
先後馬をりのて次つちをぬまみてむましのく井て移ほとま
敗もしは難ハけりしにハ男の移はるハ女のちをちせぬ
女をむまむらの中よりかちししれどちのちをちせぬまもえし
わき人あなわちて大けらんとされバ女わびて

男のちをちししれどちのちをちせぬまもえし
下共よわくし
あつてちのちをちししれどちのちをちせぬまもえし
或後よきのちを専
とみまらぬことよ
て八木ハ世まのち
をかくものごち
つらつらとま
ハ世まは世の初
つ人のちをちひて
あふせつわねら
まもまはまのち
まつひハ他のち
あつて作らるる
ちのちをちし
ありてねつさね
ありてねつさね

こい神ありかちをぬまみてむましのく井て移ほとま
あつてちのちをちししれどちのちをちせぬまもえし
あつてちのちをちししれどちのちをちせぬまもえし
あつてちのちをちししれどちのちをちせぬまもえし
あつてちのちをちししれどちのちをちせぬまもえし
あつてちのちをちししれどちのちをちせぬまもえし

因らねいふ所... 武蔵... 高麗人... 武蔵... 高麗人... 武蔵... 高麗人...

武蔵... 高麗人... 武蔵... 高麗人... 武蔵... 高麗人...

武蔵... 高麗人... 武蔵... 高麗人... 武蔵... 高麗人... 武蔵... 高麗人... 武蔵... 高麗人...

三の向今本... 武蔵... 高麗人... 武蔵... 高麗人... 武蔵... 高麗人...

武蔵... 高麗人... 武蔵... 高麗人... 武蔵... 高麗人... 武蔵... 高麗人...

武蔵... 高麗人... 武蔵... 高麗人... 武蔵... 高麗人... 武蔵... 高麗人...

餘ハ借字としてみん
今本せんハのり切字
し

惡の字將してみん
用うるハ惡社惡文な
らむ

め名のこぢむ見而如何詮とあれバ見していつとせんとも
て如のふつわせもふつわをのり切らうもをやのけつらよハ神
代紀ヲ神性の字をよかふもかう世ののり切の
なとをいふもをよかふもをよかふもをよかふもをよかふも
をよかふもをよかふもをよかふもをよかふもをよかふも
不祥ハあふよかふのり切のり切のり切のり切のり切のり切の
ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん



